

プログラム名: 観光歴史ガイド養成プログラム

代表者: 宮瀧 交二

評価基準		点検・評価項目		自己点検 はい/いいえ	自己点検に対する根拠資料等	自己点検(はい/いいえ)に関する補足説明等 (各項目で指定の事項「はい」の場合特に優れた事項、「いいえ」の場合の改善計画他)	自己評価				
1	プログラムの目的・概要	1	当該プログラムは対象とする職業の種類および身につけることのできる能力を具体的にかつ明確に定め、公表しているか	-1	課程の目的・概要は具体的に定められているか	はい	職業実践力育成プログラム申請書様式1 一般教育訓練実施状況調査票(個票)、明示書	A :点検項目がすべて「はい」である			
				-2	対象とする職業の種類は明確か	はい	職業実践力育成プログラム申請書様式1 一般教育訓練実施状況調査票(個票)、明示書				
				-3	身につけることのできる能力は具体的に定められているか	はい	職業実践力育成プログラム申請書様式1 一般教育訓練実施状況調査票(個票)、明示書				
				-4	上記項目について公表されているか	はい	HP https://www.daito.ac.jp/recurrent/				
2	教育課程	1	対象とする職業に応じ、前項の能力を身に付けるのに必要な実務に関する知識、技術および技能を習得させる教育課程となっているか	-1	科目内容及び時間数は対象とする職業に応じ、前項の能力を身に付けるのに必要な実務に関する知識、技術および技能を習得させる教育課程として適切か	はい	職業実践力育成プログラム申請書様式1.様式2.一般教育訓練実施状況調査票(個票)、明示書	A :点検項目がすべて「はい」である			
				2	対象とする職業に関する企業、団体等と連携して行う授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業その他の実践的な方法による授業が総授業時間数の5割以上を占めているか	-1	次の方法による授業(「実践的な方法による授業」)の時間数および該当する方法が総授業時間数に占める割合が5割以上か ①企業等と連携して行う授業 ②双方向または多方向に行われる討論を伴う授業 ③実務家教員や実務家による授業 ④実地での体験活動を伴う授業		はい	職業実践力育成プログラム申請書様式1様式2	「実践的な方法による授業」が総授業時間数に占める割合を記述して下さい: 93%
						3	「実践的な方法による授業」について、実施している割合や内容がわかるようシラバスに具体的に明記し、公表しているか		-1	「実践的な方法による授業」について、実施している割合や内容がわかるようシラバスに具体的に明記し、公表しているか	はい

プログラム名: 観光歴史ガイド養成プログラム

代表者: 宮瀧 交二

評価基準	点検・評価項目		自己点検 はい/いいえ	自己点検に対する根拠資料等	自己点検(はい/いいえ)に関する補足説明等 (各項目で指定の事項「はい」の場合特に優れた事項、「いいえ」の場合の改善計画他)	自己評価
3 教育成果	1 修了要件は受講生に公表されているか	-1 修了要件・修了を認定する時期/修了時に付与される学位・資格等を明示して公表しているか	はい	職業実践力育成プログラム申請書様式1 一般教育訓練実施状況調査票(個票) HP https://www.daito.ac.jp/recurrent/		A :点検項目がすべて「はい」である
		-2 修了要件は明示して公表しているか	はい	職業実践力育成プログラム申請書、 一般教育訓練実施状況調査票(個票) HP https://www.daito.ac.jp/recurrent/		
	2 審査、試験その他の適切な方法により「身に付けることのできる能力」を習得できたかどうか評価を行っているか	-1 審査、試験その他の適切な方法により「身に付けることのできる能力」を習得できたかどうか評価を行っているか	はい	職業実践力育成プログラム申請書様式1 一般教育訓練実施状況調査票(個票)	「身に付けることのできる能力」を習得できたかどうか評価する方法を記述して下さい: 本プログラム全60時間の授業について4/5以上の出席、資格認定試験課題に合格	
		3 修了者の状況による効果検証の方法および公表方法は定められているか	-1 効果検証の方法は定められているか	はい	職業実践力育成プログラム申請書様式1 明示書(修了者の状況データ)	
	-2 効果検証方法は公表されているか		はい	明示書による公表 HP https://www.daito.ac.jp/recurrent/		
	4 3の効果検証により、プログラムの目的に照らして適切な教育成果を挙げられているか	-1 効果検証の結果、適切な教育成果を挙げられているか	はい	受講後アンケート 明示書(修了者の状況データ)	はいの場合、適切な教育成果をあげられていると判断した理由を記述して下さい。 昨年度に引き続き、講座を修了した2期生にも、下記①～③のような展開がうかがわれた。 ①本講座を修了した1期生とともに2期生の大半の方々もOB会に参加され、2024年度の講座運営のサポートに加わって下さることになった。 ②更に本学での学修を希望する2期生の方々は本学地域連携センターのオープンカレッジにも参加され、地域の重視学修に意欲的に取り組んでおられる。 ③居住地での観光歴史ガイドにボランティア参加する方々も多い。	

プログラム名: 観光歴史ガイド養成プログラム

代表者: 宮瀧 交二

評価基準	点検・評価項目		自己点検 はい/いいえ	自己点検に対する根拠資料等	自己点検(はい/いいえ)に関する補足説明等 (各項目で指定の事項「はい」の場合特に優れた事項、「いいえ」の場合の改善計画他)	自己評価	
4 内部質保証	1 教育課程の編成および自己点検・評価を行うにあたり企業等の意見を聞くための仕組みを整備しているか	-1 教育課程の編成において企業等の意見を聞くための仕組みを整備しているか	はい	職業実践力育成プログラム申請書様式1		A :点検項目がすべて「はい」である	
		-2 自己点検・評価において企業等の意見を聞くための仕組みを整備しているか	はい	職業実践力育成プログラム申請書様式1			
	2 修了者の状況による効果検証結果を教育課程の見直しに活用しているか	-1 修了者の状況による効果検証結果を教育課程の見直しに活用しているか	はい	受講後アンケート 明示書(修了者の状況データ)	1期生の方々よりプログラム受講後の観光歴史ガイドのスキルアップした成果を披露し、講師側からコメントをしてほしいとの要望があり、2023年度の2期生からプログラム受講完了後に対面調査(ギャラリートーク)を実施し、教育の効果測定を実施した。		
	3 自己点検・評価結果をプログラム運営の見直しに活用しているか	-1 自己点検・評価結果をプログラム運営の見直しに活用しているか	はい		受講者によるアンケートの結果を、本プログラムの講師各自が把握し、これを踏まえて2024年度のプログラムに向けたオンデマンド教材の修正や講義テキストの部分的な改訂に取り組み始めている。		
5 受講生支援	1 授業を行う時間・時期・場所等について社会人が受講しやすい工夫をおこなっているか	-1 授業を行う時間・時期・場所等について社会人が受講しやすい工夫をおこなっているか	はい	職業実践力育成プログラム申請書様式1	工夫の内容を記述して下さい: LMSを活用したe-ラーニング、土日祝日のみの通学で終了可能な開講スケジュール	A :点検項目がすべて「はい」である	
		2 受講生に対する習得度・理解度に関する具体的な助言・指導の方法は明示されているか	-1 受講生に対する習得度・理解度に関する具体的な助言・指導の方法は定められているか。また、受講生への周知はなされているか。	はい	一般教育訓練実施状況調査票(個票)、明示書		①受講生に対する習得度・理解度に関する具体的な助言・指導の方法を記述してください 習得度・理解度についてLMSを利用し確認を行い、習得度・理解度に問題がある場合は個別指導も検討する。また、受講生からの質問等に対応すべく窓口を設置し、学習補助を行う ②受講生への周知方法を記述してください 明示書
		3 受講中又は修了時における資格取得・就職への具体的なバックアップ体制は明示されているか (例: 資格取得関連情報や資格関連職種の人材情報の提供方法、早期就職に向けた具体的な相談体制の整備状況)	-1 受講中又は修了時における資格取得・就職への具体的なバックアップ体制は定められているか。また受講生への周知はなされているか	はい	一般教育訓練実施状況調査票(個票)、明示書		①受講中又は修了時における資格取得・就職への具体的なバックアップ体制を記述してください 資格取得については、繰り返し学べるようLMSに対面授業等の録画データを格納するなどのバックアップ体制をとる。就職については、観光ガイドを募集している自治体を紹介する ②受講生への周知方法を記述してください 明示書

プログラム名: 観光歴史ガイド養成プログラム

代表者: 宮瀧 交二

評価基準		点検・評価項目		自己点検 はい/いいえ	自己点検に対する根拠資料等	自己点検(はい/いいえ)に関する補足説明等 (各項目で指定の事項「はい」の場合特に優れた事項、「いいえ」の場合の改善計画他)	自己評価
6	受講生の受け入れ	1 受講生を受け入れるための要件は、当該プログラムが目標としている内容を効果的に実施するための見地から合理的に設けられたものか	-1 受講生を受け入れるための要件は、当該プログラムが目標としている内容を効果的に実施するための見地から合理的に設けられたものか	はい	一般教育訓練実施状況調査票(個票)、明示書	①受講生となるための要件を記述してください 必須ではないが、地域の歴史に造詣が深く、調査・研究の経験があることが望ましい。 ・受講に最低限有しておくべき技能・知識の内容及び水準 学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有し、就労中または就労経験のある社会人 ②上記要件が設定された理由を記述してください すでに観光地化している神社仏閣や名所旧跡のみならず、国内外のあらゆる場所を「歴史研究の成果を観光を通じて社会に還元する歴史学(観光歴史学)」の観点から、広く調査・研究し、新たな観光地としての魅力を引き出すという社会的使命を持った「観光歴史ガイド」を養成するため	A :点検項目がすべて「はい」である
7	教員組織・運営	1 当該プログラムについて適切に指導することができる指導者を有しているか	-1 科目を担当する指導者に不足はないか	はい	職業実践力育成プログラム様式2 一般教育訓練実施状況調査票(個票)		A :点検項目がすべて「はい」である
		2 当該プログラムに係る販売活動・教育活動に関する苦情、不適正な販売活動等に関する情報を受けるための窓口が設けられているか	-1 当該プログラムに係る販売活動・教育活動に関する苦情、不適正な販売活動等に関する情報を受けるための窓口が設けられているか	はい	一般教育訓練実施状況調査票(個票) 明示書		
		3 2の窓口へ寄せられた苦情等を受けた場合に事実関係等の調査改善を行うプロセスは定められているか	-1 2の窓口へ寄せられた苦情等を受けた場合に事実関係等の調査改善を行うプロセスは定められているか	はい	-	苦情等を受けた場合に事実関係等の調査改善を行うプロセスを記述してください リカレント教育推進室にて事実関係等の調査実施・リカレント教育運営委員会にて改善について検討する	
8	施設設備	1 当該プログラムを実施するにあたり、十分な施設設備を備えているか	-1 当該プログラムを実施するにあたり、十分な施設設備を備えているか	はい	一般教育訓練実施状況調査票(個票)、明示書		A :点検項目がすべて「はい」である

プログラム名: 観光歴史ガイド養成プログラム

代表者: 宮瀧 交二

評価基準		点検・評価項目		自己点検 はい/いいえ	自己点検に対する根拠資料等	自己点検(はい/いいえ)に関する補足説明等 (各項目で指定の事項「はい」の場合特に優れた事項、「いいえ」の場合の改善計画他)	自己評価
9	広報活動	1	当該プログラムの関連企業・機関に対して周知・募集の活動を実施しているか	-1 当該プログラムを関連企業・機関に周知・募集活動を行ったか	はい	職業実践力育成プログラム申請書様式4	A :点検項目がすべて「はい」である
			-2 企業・機関等へ周知したことによる効果はあったか	はい	-		
		2	当該プログラムについての情報をまとめ、広く公開しているか	-1 当該プログラムについての情報をまとめ、広く公開しているか	はい	HP https://www.daito.ac.jp/recurrent/	

協議会での連携企業からの意見等	連携企業名:	(公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
-----------------	--------	-------------------

受講生によるアンケートを活用することで講義内容を工夫し、満足度を上げていけるとよいと思う。受講生の興味関心に合わせた講義を行うとよいと思うが、実際の講義の時間の中でそれをくみ取することは難しいと思うので、事前に情報収集を行うなどして受講生のニーズに合わせた講義実習を行っていくことも考えられるのではないかと。

自己点検・評価委員会による評価	A :各点検項目について基準を満たしている
-----------------	-----------------------

過去の年度に講座を修了した受講生が、OB会に参加するとともに今年度の講座運営サポートに加わるなどといった報告内容から、実施されている授業内容ならびにそこで受講生が得た経験は、本プログラムが狙う教育効果に加えて意義深いものであったことがうかがえ、設定されている教育課程に基づいた授業内容について高く評価できる。加えて、修了生はその後も、オープンカレッジや観光歴史ガイドのボランティアとして活動を続けていることから、本講座の内容は各受講者のさらなる学習意欲の醸成やスキルアップに結び付いていることがうかがえる。受講生の受け入れについて、「国内外のあらゆる場所を「歴史研究の成果を、観光を通じて社会に還元する歴史学(観光歴史学)」の観点から、広く調査・研究し、新たな観光地としての魅力を引き出す」という社会的使命を持った“観光歴史ガイド”を養成するため」という目的に基づいて要件を設定しているが、歴史研究への興味や学習意欲の高い方々が受講されていたともいえる。1期生の要望を取り入れて受講完了後の対面審査を実施するなど、学習プログラムの改善に努めている。連携企業からの意見において、受講生のニーズに合わせた講義内容の工夫の必要性が示唆されている。今後、受講生アンケート等の情報や連携企業の意見を取り入れることによって、さらに学習成果を高めるプログラムになることが期待される。